

つまでもこちらが通訳してあげる事はできません。日本語が分からない子に日本語で意思疎通を図ろうとする事の難しさを知りました。

今回の支援は私にとって初めての長期支援で、まだまだ分からないことだらけですが、この経

験から、日本にいる外国籍の児童や日本語支援が必要な児童を取り巻く様々な課題や、支援することの難しさを学ぶことができました。今後も自分でできることを模索しながら、少しでも児童たちの役に立ちたいと思っています。

## AMAUTA支援を通して感じたこと



宇都宮大学国際学部2年

アギーレ ナルミ

HANDSによる外国人児童生徒教育支援活動の一つに、「AMAUTA」の学習支援がある。「AMAUTA」とは、真岡市にあるスペイン語母語保持教室である。参加している子どもたちは、ペルーにルーツのある子どもたちが多く、小学校1年生から中学生まで幅広い年齢の多くの子どもが参加している。普段の教室では、子どもたちの母語であるスペイン語や母文化を忘れさせないための活動が子どもたちの保護者によって行われている。その一方で、毎年夏休みには、HANDSジュニアや学生ボランティアによって、子どもたちの学習支援（主に夏休みの宿題）を行っている。今年度は、18:15～20:00の時間帯を利用し、全5回行った。

自分と同じペルーにルーツを持つという共通性があることから、この活動に参加することをとても楽しみにしていた。教室に入ってみると、子どもたちはスペイン語で話したり、ペルー流のあいさつをかわしたりしていた。ありのままの姿でいる子どもたちの姿を見て安心したと同時に、自分自身のもう一つの故郷であるペルーにいるかのように感じた。みんなに自己紹介をし、スペイン語を話すことができるということが子どもたちにわかると、多くの子どもたちが話しかけてくれた。もちろん日本語での会話を交わすことのできる子どもたちであるが、教室の中ではスペイン語が飛び交っていた。

外国人児童生徒教育に関する授業や日本語教育に関する授業において、学習言語の困難さを学んでいたが、実際に学習支援をする中で、そ

の現状を実感する場面は多かった。多くの子どもたちは、問題文を読もうとすると漢字が読めず、設問を理解するという一番初めの段階でつまづいてしまっていた。また、設問を読めても、言葉の言い回しが話し言葉と異なることから、理解に苦しむ子どもたちもいた。やさしい、簡単な日本語で設問を説明したり、スペイン語に訳して設問の説明をしたりと、理解してもらえるような工夫を心掛けた。しかし、その説明をしている中でまた理解のできない言葉があり、かえって子どもを混乱させてしまうこともあった。スペイン語での説明においても同様であった。教えることの難しさを感じた瞬間であった。学習では困難を感じている子どもたちでも、休憩時間になると、みんな普通の一人の子どもであった。趣味、好きなこと、好きな食べ物、などいろいろなことを話してくれた。しかし、その中で学校生活の話は出てこず、かれらにとって学校生活は、苦痛の場になっているのだろうかや疑問を持った。日本の子どもたちにとっては当たり前である1冊の夏休みの宿題は、AMAUTAの子どもたちにはどれだけ重くのしかかっているのだろうか。また夏休みの宿題でなくとも、普段の学校生活では、何を思って何を考えて生活しているのだろうか。日本語を学習することへの動機付けが困難である中で、子どもたち自身が抱えるストレスもあるのではないだろうかと感じた。

AMAUTAの支援を通して、このような状況

の中で学生ボランティアとして何ができるのだろうか。学習支援の重要性はもちろんである。しかし、子どもたちの身近な存在の一人として、精神的な心のつながりを持つことも重要であるのではないかと感じた。日本語ができなくとも、みんな一人の人間であり、そして一人の子どもである。小学校・中学校という成長段階において、様々な面で大きな影響を受けるであろう子どもたちが、いかにありのままの姿でいられるような環境を作ってあげることも、支援の一つであり、学習意欲にも繋がるのではないかと感じた。そのためには、一人一人の子どもの多様な背景に向き合

い、理解をしようとする努力をする必要がある。

身近にある様々な問題を実際に感じる事ができるこの活動を、今後も続けていきたい。



## 小学校での夏期集団支援 ボランティアに参加した動機と感想

宇都宮大学国際学部 3年

佐々木千暁

私は、7月21日と7月27日の計2回、鹿沼市立みどりが丘小学校にボランティアに行きました。1回目は子どもたちの夏休みの宿題の学習支援、2回目は地域の方が主催するイベントのお手伝いとして、調理実習のクラスに参加しました。2回の活動を通して子どもたちと過ごした時間はとても有意義なものでした。ここでは私がボランティアに参加した動機と参加してみたの感想を記したいと思います。

私がボランティアに参加する動機となったのは、大学の授業と自身のアルバイト経験からでした。まず大学の授業についてですが、私はいくつかの授業で、日本に住む外国人児童生徒が学習面で苦労している現状を知りました。日常会話に問題はなくても学習で使う言葉は難しいこと、試験を行うことで能力を判断し合格者を決める「適格者主義」の高校入試が外国人児童生徒にとって進学の大きな壁になっているということなどです。日本に生まれ、ずっと日本で生活してきた私でも入試や進学は不安でいっぱいであるのに、ましてや不慣れた言語に囲まれて毎日学校生活を送る外国人児童生徒の不安は計り知れないものだと

思いました。そこで私も少しでもかれらの力になりたいと考えるようになったのです。

また、アルバイト経験については、私は以前、塾の講師として小学生・中学生を対象に勉強のサポートをするアルバイトをしていました。積極的に質問する子、なかなか集中して取り組めない子など様々な生徒がいる中で、私は自分なりに子どもたち一人ひとりのペースに合わせてながら教えるよう心がけていました。そして今年度、この外国人児童生徒の学習支援ボランティアの募集を見て、かつての自分のアルバイト経験を生かしてかれらの力になれるのではないかと思い、ボランティアに参加することを決めました。

次に参加してみたの感想を記したいと思います。最初は私も子どもたちもお互いに少し緊張していましたが、そのうち打ち解けて家族のことや好きなことなどいろいろ話してくれました。学習支援と調理実習という2種類の活動を通じて元気な子どもたちと関わって、どちらもとても楽しみながらボランティアに参加することができました。もちろん楽しかっただけでなく「この問題は どう説明したらよいのだろう」と悩む